

心の健康教育に関する理論と実践
(火曜日 3 時限, 担当教員: 森平准次)

■ 成績評価について

シラバスに記載されたとおり, 議論への参加の度合い (35%), プレゼンテーション (30%), プレゼンテーションの発表資料 (35%) を総合して評価する。それぞれについて授業内でフィードバックを行う。

プレゼンテーションの発表資料 (個人・グループいずれも) の評価の観点を以下に示す。最高得点は 35 点だが, 個人発表とグループ発表のそれぞれを 35 点満点で評価し, 合計し (70 点満点), 2 で割った数字 (35 点満点) を, 発表資料の得点とする。

1. プログラムのねらい, 到達目標, 学習者にどのようになってほしいか。
2. プログラムの対象者 (学習者)。
3. プログラムの評価 (実践の中で評価が記載されていない場合, どのように評価することが望ましいかを考察で記載して差し支えない)。
4. 考察, レポーターのプログラムへの評価。

以上の点について, 資料の中で明確に記載されているか。あるいは, 触れているかいるか, を評価の観点とする。以下, 評価の基準を示す。

表 1 評価の基準

上記 1	上記 2	上記 3	上記 4
ねらいが明確に読みとれ, より良いプログラムのために考察で検討している (10 点)	実践プログラムの対象者が明確に読みとれ, さらに考察でその妥当性が検討されている (5 点)	実施されたプログラムの評価の妥当性が考察されている (5 点)	実践プログラムを評価したうえで, さらに必要な心の健康教育について触れられている (15 点)
ねらいを明確に読み取ることができる (8 点)	実践プログラムの対象者がよく分かるように明確に記載されている (4 点)	実施されたプログラムの評価が明確に読み取れる。または元の論文に評価の記述がなくても, どのように評価したらよいかをレポーターが考察できている (4 点)	実践プログラムの意義と, その妥当性について考察されている (10 点)
実践プログラムのねらいが記載はされているが読み取ることが難しい (5 点)	実践プログラムの対象者について記載はあるが, 明確でない (2 点)	実施されたプログラムの評価が記載されているか, 元の論文に評価の記述がないことを記載している (1 点)	実践プログラムのねらい, 対象者, 内容, について有機的に評価している (8 点)
実践プログラムのねらいを読み取れない (0 点)	実践プログラムの対象者を読み取れない (0 点)	実施されたプログラムの評価が記載されていない (0 点)	実践プログラムについて考察されていない (0 点)